



【 一年の計は元旦にあり 】

新年あけまして、おめでとうございます。今年のお正月は天候も良く、本当に穏やかな年末年始となりました。皆さま、どのように新年を迎えられましたでしょうか。本年も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、年の始めに目標を持つことは、とても意義のあることで、日本には「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。新しい年を迎えると、夢や希望を心に描きみんな努力を積み重ねてきたのです。

「 一年の計は元旦にあり 」

年の初めである元旦に一年の計画をしっかりと立てることが大切であることから、物事を成し遂げる際に、最初にきちんとした計画や準備が必要であることを意味している。

2学期の終業式では、生徒たちに次のようなお話をしました。

「休み中に、令和5年という新しい年を迎えることになりましたが、この機会を生かして、自分なりの新しい一歩を踏み出してほしいと願っています。ちょっと油断していると、『これまでと同じでいいや』といつも通りを繰り返してしまうことになってしまいます。それでは、改善も進歩もありません。人間としての成長にも繋がりません。そこで、新年になったら自分なりの、具体的で行動できる目標や抱負を持ちましょう。『これについては、今年はどうするぞ』と、新しい年を迎えたら、行動が伴うように心を入れ替えるのです。

心が変われば 行動が変わる

行動が変われば 習慣が変わる

習慣が変われば 運命が変わる

心を新たにして、自分の運命を自分自身で切り開きましょう。願うだけは誰にでもできます。要は、心を入れ替え、自分に厳しく実行できるかどうかです。『心機一転』良い方向に変える新年にしましょう。」と、というような内容です。

しかし、このように目標を立てても、私もそうですが、怠け心が出てきたり、諦めてしまいたいと思ったりすることがあるものです。目標を達成するために、1年間ずっと同じ調子で頑張り続けるのは難しいものです。

そこで、目標は一度で大きな目標にするのではなく、はじめは短い期間で達成できる小目標を考えるのが良いのではないかと思います。スポーツ界の一流アスリートからも、活躍するにはこの小刻みな目標設定が重要な要素になっているとよく聞くことがあります。1日の目標、1か月の目標、半年の目標というように、小さな段階で目標を立て、反省や見直しを繰り返しながら挑戦を積み重ね、1年後には大きな目標に到達できているという方法が有効のように思います。

山形の米沢藩主だった上杉鷹山公が、次のような言葉を残しています。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬ人は成らぬなりけり」

どんなことでも強い意志を持ってやれば必ず成就するということで、やる気の大切さを説いた言葉です。夢や希望を叶えるには、やる気と一つ一つの地道な実践が大事であるということです。

令和5年が始まりました、生徒一人一人が輝かしい1年にしてくれることを願っています。

【 1月の行事予定 】

- 1月10日（火）3学期始業式、生徒会役員任命式
- 1月23日（月）生徒集会
- 1月31日（火）新入生説明会（午後）



12月に新旧生徒会役員の引継ぎがありました。
ご苦労様！
そしてガンバロウ！

【 いよいよ受験が始まります！ 受験は団体戦！？ 】

「今年度に入って4月から今まで、窓ガラスが1枚も割れていません。これは、奇跡です。」確かに、530名を越える生徒数で、窓ガラスが1枚も割れていないというのは素晴らしいことです。それだけ、日ごろ生徒が落ち着き、安定した学校生活であるということだと思います。

そんな落ち着いた校風を中心となって作り上げてくれた3年生が、いよいよ受験シーズンに突入します。「受験は団体戦」とよく言われます。確かに試験は一人一人が受けるのですが、学級・学年・学校全体の受験に対する雰囲気や励まし合い、日ごろの落ち着いた生活態度が、不思議と結果を左右するのです。だから団体戦なのです。

受験心得3か条として、次のことに心がけてほしいと思います。

- 1 心身の状態をベストコンディションにもっていくこと。
- 2 備えあれば憂いなし、万全の準備を整えること。
- 3 生活態度も受験のうちだと自覚すること。

「人事を尽くして、天命を待つ」という言葉があるように、ここまできたら、やれるだけの事をやり、今まで培ってきた自分の力を信じて、自分のベストを尽くす気持ちで頑張してほしいものです。健闘を祈ります!!

【 年頭にあたり、志は高く!! 】

今年は「兎年」。ということで、「兎」に関する四字熟語を調べていたところ、次のような熟語が紹介されていました。

「鷹目兎耳」（えんもくとじ）

鷹（トビ）の目は遠くのことで目ざとく見つけることができ、
兎（ウサギ）の耳はどんな小さな音もよく聞こえるという意味で、
そのような目と耳を持った鋭い人のこと。

生徒たちは、学級や生徒会、部活動など、様々な集団のなかで活動をします。鷹目兎耳の鋭い感覚を持ち、学習にも様々な活動にも積極的にに関わり、「自分の根っこ」が太く丈夫になるよう鍛えてほしいものです。

『 兎年！ 飛躍の年！ 志は高く!! 』